防災研究所一般研究集会（2021K-04）

発生頻度の低い土石流による大規模攪乱後の渓流環境の変遷の追跡

土石流による大規模攪乱を受けた渓流では,渓流の物理的な構造が改変され，水・土砂の流出特性や生物相などが大きく変容する。攪乱後の渓流環境の回復過程を継続的に観測し知見を蓄積することは，河川生態系へ配慮した河川・砂防事業を実現する上で不可欠であるが，観測事例は少ない。本研究集会では，約 20 年ぶりに土石流の発生した足洗谷流域などを対象とする研究者・技術者が研究成果を共有するとともに，関連する研究分野の研究者・技術者を招聘し，先端的な観測・研究事例を紹介してもらうことにより，今後の連携・共働のあり方について模索する。

於：中尾公民館（岐阜県高山市奥飛騨温泉郷）

12 月 4 日（土）
13 時頃に京大防災研穂高砂防観測所に集合
13:30 頃から研究集会開始

宮田秀介（京都大学）：
ヒル谷観測流域において 2020 年に発生した土石流
北條杏梨・権田豊（新潟大学）：
大規模攪乱後の Step-Pool の経時変化
高山翔揮（静岡大学）：
ヒル谷上流域で発生した崩壊と土石流発生のメカニズム
山野井一輝（京都大学）：
流域土砂動態モデルの改良
永山滋也（岐阜大学）：
山地河川における環境 DNA を利用した魚類調査の時空間動態の調査
布川雅典（寒地土木研究所）：
魚カウンターを用いた渓流域における魚類動態観測－イワナの源頭部湧水河川への遡上数計測－
西村直記・澤陽之（アジア航測）：
砂防分野における SLAM 技術の活用

17：30 頃終了

12 月 5 日（日）
9:00～10:00　参加学生による各々の研究紹介
10:00～12:00 ヒル谷の現地見学
12:00 解散